

「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」検討・準備グループ（第 5 回）
新テスト実施企画委員会（第 2 回）
議事概要

日時：平成 28 年 10 月 25 日（金）15：00－17：00

場所：文部科学省 3F1 特別会議室

出席委員：岡本主査、荒瀬委員、沖委員、川上委員、東島委員、平方委員、
宮本委員、安井委員、木村委員、島田委員、田中委員、林委員、
福永委員、前川委員

【資料説明】

- 岡本主査より机上配付資料（2016 年 10 月 18 日毎日新聞 31 面記事）についての発言
- 橋田室長より机上配付資料（大学入学希望者学力評価テスト（仮称）の実施時期について／全国高等学校長協会）、参考資料 1～3、資料 1～4 に基づき全国高等学校長協会、国立大学協会、日本私立大学団体連合会からの意見、記述式問題の実施イメージ等について説明
- 宮本委員より机上配付資料（大学入学希望者学力評価テスト（仮称）の実施時期について／全国高等学校長協会）について説明

【自由討議】（1）記述式の実施イメージ案等について

- 川上委員：現在、公立大学でもアンケートを集計しているところで、11 月には結果を伝えられる。公立大学は、個々の大学の規模が小さく、個別選抜とセンター利用入試を両方とも実施することが難しい場合、どちらか一方しか実施できない。また、中期入試を実施している大学もあるため、採点については懸念がある。
- 安井委員：いかに多くの大学に利用してもらえるかが重要。記述式について、40 字と 80 字の違いが不明だが、とりあえずは基盤を作ることが重要。まずはセンター試験で実施し、どこの大学でも同じように使えるようにして、平等性を確保してもらいたい。
- 沖 委員：私立大学のセンター利用入試の場合、それぞれの大学や学部により利用科目数が異なり、また、同一学部において別日程でセンター利用入試を 3 回行うなど、それぞれの大学で事情が異なる。改革の方向性には反対していないが、本当に可能であるのか疑問である。
- 東島委員：入試改革は、小中高大全部含めた教育改革の一つと認識している。

宮本委員より高等学校における多様な教育活動を十分に行うことが困難であるとの発言があったが、それをいかに改善していくかが我々が行っていく改革。大学入学希望者学力評価テストは、あくまでもその一部であり、総合的な評価による選抜を行うということがこの改革の本丸であると考えてるので、個別入試でも多面的で総合的な評価を行わなければならない。40～80文字での記述というのはそのスタート地点。全国の大学の7割を占める私立大学ができるだけ参加し、規模の大小に関わらずいろいろな大学ができるだけ使うことが、高校生に対するメッセージとして重要。2～3年は批判があるかもしれないが、その間に改善していけば良いので、私はパターン2で十分ではないかと思う。大学は本丸である総合的な選抜を行う個別入試への改革に力を注いでほしい。

岡本主査：作問した教員は、センター試験を自分たちが出題しているという意識がある。採点方法はいくらでもあるが、出題者自らが採点すれば良いと思う。文字数が少なくても、サンプルを大学入試センターなどで10年くらいかけて集めることが大事。数学はある程度機械的な採点が可能だと思うので、国語に特化したデータを収集することが重要。

林 委員：どちらかという記述式問題を採用したくない立場だが、技術革新でみんなを変えていこうというのは、1つの考えだろうと思う。多くの大学が参加することが重要。私立大学の中には、センター試験利用をしていなかったり、利用をやめたりしている大学もあるので、個々の建学精神があることは存じているが、国立大学からすると、できるだけ参加してもらいたい。記述式を導入している大学が6割とのことだが、理系の学部においては数学の記述によって、考えを読み取れるのではないかと思うので、国語の記述式だけの統計ではなく、数学の記述式の統計も加えても良いのではないか。また、問題のねらい、採点基準、解答例を大学へ提供しないという選択肢もあるのではないか。以前、出題者と採点者を別にして、採点者が受験生と同じ目線で出題者の意図を考え、採点していたということがあったと聞いている。

岡本主査：数学は記述の意味は1つだが、国語はその点が違うので難しい。

福永委員：大学入試センター新テスト実施企画委員会委員でもあり、新テスト実施賛成派。実施時期は1月で、全員不満がないとの意見で良いかと思われる。パターン1が難しいため、パターン2で行うよう話が進んでいるが、パターン2で実施する場合、50万人以上の採点の

統一性確保が困難という問題点は解決できるのか。40文字にするか80文字にするかでどの程度の差があるのかはわからないが、記述式は1、2問程度の出題のため、全問題中の割合は少ない。まずは第一歩を踏み出してみることが大切なのではないか。また、センターでの処理に民間事業者を活用するということがだが、民間事業者の採点方法はブラックボックスになっている部分がある。採点人員として千人くらいは必要になってくるのではないかとと思われるが、公平に採点できるのか。採点者1人1問あたり何分で採点させる予定なのか。

伯井理事：どこまで客観的な採点ができるかは、これから検証していくところ。フィージビリティ検証事業で、今年度、大学1年生を対象とした500人規模のモニター調査を行う。具体的にどこまで段階別評価ができるか、採点のばらつきがどの程度発生するのか、検証していきたい。民間事業者とアドバイザリー契約を結んでおり、その試算では1,000人の採点者が必要とのこと。採点期間を15日間とすると、1人1問あたりの採点時間は7～8分を見込んでいます。来年度、数万人規模でのプレテストを行い、採点スピードを含めて検証予定。民間事業者の結果を鵜呑みにせず、懐疑的に見ながら固めていく必要がある。どの程度の問題であれば、共通テストの中の記述式問題を短期間で客観的に採点できるかということを見極めることが、大学入試センターに与えられた命題に応えることであると思っている。

岡本主査：国語でどのような記述式問題を出題するのかが結局問題となると思うが、どのような問題を出題するのか。

島田委員：論理的な思考・表現力や情報収集・操作の能力については、現行の学習指導要領においても、高校までにある程度身につけなければいけないものとされているが、今まで重要視されてこなかった。論理は身近な所にある大切なものであり、高校生が身近に感じて関心を持ってもらいたいというメッセージを込めて、論理を重視した問題を出題することには大きな意味があると考えている。具体的な問題イメージが手元にないため説明しにくいですが、統計や複数の事象を提示した問題、現代文・古文・漢文などジャンルをまたいだ問題、情報の編集や操作を行うような問題などが考えられる。具体的な問題例を見て、その時にまた議論いただきたい。

荒瀬委員：国語担当なので、島田委員の言う問題はイメージできる。そのような力は高校3年生になってから身につくものではなく、12年間か

けて身につけていくものなので、国語の問題としての観点だけから言うと、新テスト実施時期を12月としても問題ないと考える。言語能力を見る問題を出題することは、国語の教員に対するメッセージ性がある。

岡本主査：大学の国語の問題の作問についてはどうなのか。

島田委員：高校の学習指導要領のほか、教科書・参考書を確認して作問するだろう。

岡本主査：大学でも小論文の採点を行っている。小論文はテーマがあるため、採点しやすいが、国語はどういう所を見れば良いのか。

島田委員：小論文は「何を言うか」を見るが、国語は日本語の適切で効果的な運用ができているかを見る必要があるので、「何を言うか」に加えて「どう言うか」を見て採点する必要がある。それについては、40字でも80字でもどちらでも可能であると思う。

前川委員：マークシート式の設問と記述式の設問で、試験時間は分けた方が良いのではないか。段階別表示を行うということは、大学入試センターが採点を行うということなのか。段階別表示が何段階になるのか。例えば5段階のうち今年度の4は昨年度の4と同じレベルになるのか。業者が採点するために易しい問題しか出題できないというところは気になる。センターの処理期間が20日程度となっているが、データ提供が私立大学の入試に間に合うのか。基礎テストで記述式を行うのではダメなのか。

田中委員：制度設計のところからすると、パターン1は複雑過ぎる。パターン2については、この結果だけをもって合否を決めるのか、それとも、大学で+ α の要素を加え、それも加味して合否を決めるのか。それによってテストの性格が変わってくる。後者であれば、選抜性があまりない、ある一定の学力があるかどうか判定するようなものでも良いのではないか。大学入学に必要な学力の調査という位置づけであれば、トップ25%が満点の試験でも問題ないと考えるが、必要な学力についてのベンチマークがない時点で話し合っても結果が見えてこない。学力の3要素について新テストで測れない部分を各大学が個別試験で加味して合否を決めるのであれば、パターン2が良いのではないか。

橋田室長：共通テストについては、検討・準備グループを中心に議論いただきたいが、位置づけについては、我々としても明示できればと思っている。国語について、資料2の4ページ中ほどの2段、選択式と条件付き記述式については今回の共通テストで問うべき部分、一番下

の自分の考えを構造化していく小論文については、個別選抜で問うべき部分。思考力等の観点から個別選抜については整理を進めている状況であり、学力の3要素については、全体の中で考えていく必要がある。大学入学者選抜方法の改善に関する協議で、新しいA0入試、推薦入試、一般入試についての新しいルールを決めてもらうことにしており、その中で共通テストとの関連についても議論を進めてもらう。

角田課長：国立大学ではセンター試験と二次試験で選抜を行なっているが、組み合わせ方は大学によって異なる。また、私立大学ではセンター試験の結果のみで合否を決めるような試験区分を設けている大学もある。その意味では、センター試験は、幅広い利用をされているものとしてとらえる必要がある。今までの議論ではパターン2が優勢だが、パターン2では足りないのではないかとということでパターン1という案も示させていただいているので、パターン1でもどこまで必要か議論してほしい。また、パターンにとらわれず、パターン1と2を合わせたもので検討していくのもありだと思う。また、前川委員の意見にあった記述式問題の独立もあり得るかと思う。

伯井理事：記述式問題の独立は、議論としてはあり得ると思うが、現在の日程で考えると現行の国語の枠の中でやるのが現実的。業者が採点するので難易度の低い問題となるのではなく、できるだけ多くの受験者に利用してもらえるようするには、高校で身につけるべき学力を備えているかどうかを問うレベルの問題で良いのではないかと考えている。

角田課長：段階別表示については、そのまま利用するか、それ以上に採点するかは、各大学に判断してもらうことを考えている。基礎テストについては、今の段階では入試では使わないということで合意している。また、私立大学については、それぞれの大学の考えで選抜を行なっているということを補足しておく。

東島委員：パターン2については、大学入試センターで段階別表示を行い、それ以上の採点は各大学で行うということなので、前回の案1より進歩しているということによいか。パターン1については、大学での合否判定時、記述式の部分は使わず、マークシート式の部分のみを利用するというのもできるのか。

角田課長：そのあたりも含めて議論していただきたい。

伯井理事：仕組みとしては、古典の部分を利用しないなどということは現行のセンター試験でも実施している。大学がどのように利用するかによ

って、受験生が解くパターンが変わってくるということも想定できる。

荒木補佐：国語の能力としての識別力を判定するという観点からすると、記述式が入った大問をマークシート式の部分を含めて全て捨てるのは、技術的には難しい。

東島委員：マークシート式のみ利用はありということで了解した。

田中委員：このテストの中のどこを使うのか大学が選べるということでよいのか。

岡本主査：パターン 1 と 2 は排他的ではない。段階別表示のみで判断するかそれ以上に採点するかは、各大学による。高等学校に対するメッセージになるので、今の時点では、いろんな可能性に挑戦していかなければいけない。

前川委員：パターン 2 の大学入試センターで採点することになると費用がかかる。パターン 1 の大学で採点することになれば大学の負担が大きくなる。パターン 1 とパターン 2 には大きな違いがあるため分けて考える必要がある。

岡本主査：今の段階では可能性をつぶしたくない。採点は大変だが、教員数が少ない大学では作問の方が大変かもしれない。作問はセンターで行い、採点は各大学で行うという可能性も残しておかなければいけないと思う。

福永委員：パターン 1 の問題が必要なのか、それともセンターで採点できる問題にするのかを先に議論する必要がある。採点方法について議論しているが、じっくり採点しなければならない問題を出すというのであれば、各大学で採点しなければならないし、大学入試センターで採点できる問題にするというのであれば、大学入試センターが採点することになるのではないか。

田中委員：全大学数の 7、8 割を私立大学が占めており、難易度が高くなるほど、必ずしも全ての私立大学の学生に適した問題ではなくなってくる。自前で受験生の能力を識別できる問題を作っている大学がどのくらいあるのか。新テストはどのような性格を持つ試験なのかを議論することは、国の高等教育政策を考える上で、とても重要なことだと思う。実態として、センター試験の識別範囲から逸脱している学生もいるので、この機会にきちんと識別できるようにするのか気になる。

安井委員：今まで思考力・判断力・表現力をきちんと測ることができていなかったため、高大接続改革の一つとして新テストで記述式を導入する

ことを議論してきたが、ここで記述式とマークシート式を分割して利用できる」とすると、今までの議論が成り立たなくなるのではないか。

岡本主査：現状を固定してはならないと思う。理念が同じであれば、今の段階ではいろんな可能性を残しておきたい。すぐに変えてしまうのではなく、だんだんと方向を変えていければ良いと思う。

林 委員：全体での改革は無理だと思うが、実施するのであれば、多くの大学に参加してもらう必要があると思う。記述式の配点の重みのあんばいは難しいが、配点割合はどのように考えているのか。

岡本主査：記述式の段階別表示とマークシート式の採点を切り分けているのは、段階別表示をどのように利用するかを大学が決められることに利点があるからであると考え。利用方法を公表するかどうかは大学次第ではないかと思う。

木村委員：パターン 1 の場合、AO 入試や推薦入試では、大学は 1 月末にデータをもっても採点が間に合わない。現状では非常に厳しいスケジュールだと思う。

橋田室長：関係団体とも調整し、パターン 1 及び 2 についてもう一度整理する。

○橋田室長より参考資料 7 に基づき、今後の日程について説明。

以 上